

あなたのお買い物
助けます！

特集 高齢者の買い物支援	2
4月から市役所の組織が変わります	6
能登半島地震被災地に市職員を派遣	7
なすから地域づくりフォーラム	9
まちかどリポート・「からせん」の思い出	13
お知らせ	14
みんなの自慢の1枚・子どもたちがプロレス観戦	16

高齢者の買い物に助けます！

買い物アンケート結果 なすから宅配ガイドブック



高齢になると、掃除や洗濯などの日常的な家事がやりにくくなってきます。特に支障をきたしやすい可能性がある家事は、買い物です。その原因は、加齢により足腰の筋力が衰え長距離を歩くことや重い荷物を持つことが難しくなったり、商店街の衰退により近くの個人商店が廃業して近くで買い物ができないなどが挙げられます。また、運転免許証を返納すると移動手段が限られ、日常の買い物に不便を感じている高齢者が増えています。

農林水産省における調査結果※1では、2015年における食料品アクセス困難人口※2（いわゆる買い物難民）は全国で825万人と推計され、全65歳以上人口の24・6%にも上ります。

そこで、市と社会福祉協議会では、本市の現状を把握し、課題を解決するために、高齢者を対象に買い物に関するアンケートを実施しました。

今月号では、アンケート結果とその結果から見えてきた課題をもとに支援策として作成した「宅配ガイドブック」を紹介します。

※1農林水産政策研究所食料品アクセスマップ参照

※2食料品アクセス困難人口とは、店舗までの直線距離500m以上、かつ、65歳以上で自動車を利用できない人

買い物アンケート結果



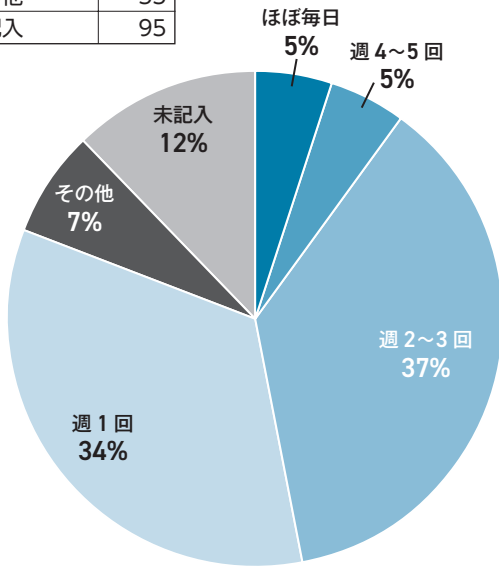
※アンケートの詳細は、市ホームページに掲載しています。

本市の買い物難民の状況を把握するため、右記によりアンケートを実施しました。調査結果とその考察を紹介します。

■調査期間：令和4年7月1日～9月31日
■対象：市内在住の65歳以上の高齢者など
■方法：聞き取り調査、郵送によるアンケート
■配布数：860人 ■回収数：766人 ■回収率：89.1%

①買い物の頻度

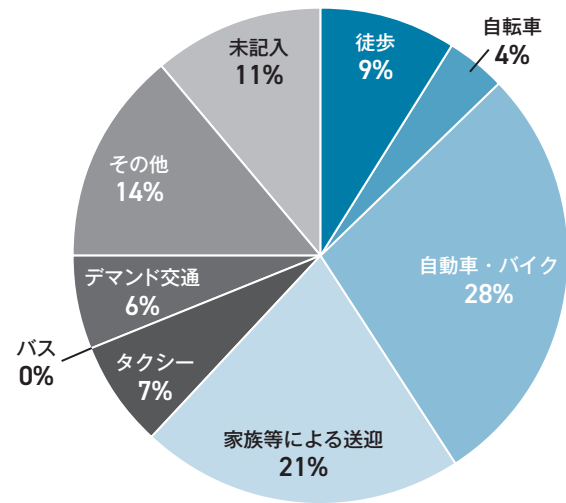
ほぼ毎日	39
週4～5回	39
週2～3回	281
週1回	257
その他	55
未記入	95



「週2～3回」が37%と最も多く、次いで「週1回」が34%となっています。
約8割の高齢者が週1回以上は買い物に出かけています。

②よく利用するお店への移動手段

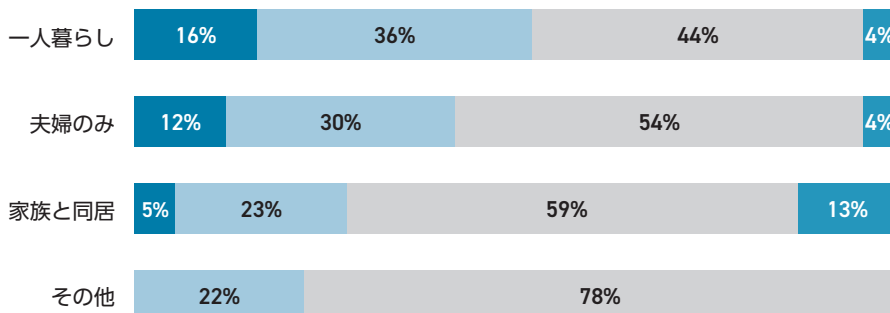
徒歩	66	バス	1
自転車	33	デマンド交通	46
自動車・バイク	211	その他	106
家族等による送迎	164	未記入	85
タクシー	54		



「自動車・バイクを運転」が28%、次いで「家族等による送迎」が21%で多く、「タクシー」や「デマンド交通」を利用している人もいます。
「その他」には自分では買い物には行かず、家族や知人、ヘルパーに購入してもらう人もいます。

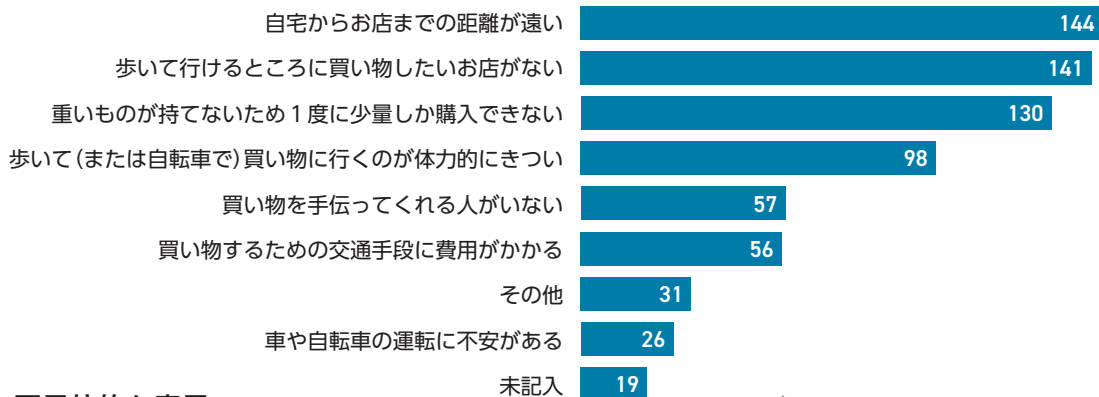
③家族構成別の買い物利便度

■ 大変不便である ■ 不便を感じない
■ 少し不便を感じる ■ 未記入



「一人暮らし」の高齢者の約5割が何らかの不便を感じており、世帯構成人数が増えるとその割合が減少しています。同居家族による支援の有無が利便度に影響していると考えられます。

④買い物の不便を感じる原因



■具体的な意見

- ・足が悪くて買い物に行けない。
- ・重いもの(灯油)などを運ぶのが大変。
- ・商品を見て買いたい。
- ・足腰が弱くなってからが心配。 など

お店までの物理的な距離や体力的な理由から買い物に不便を感じている人が多く見られます。

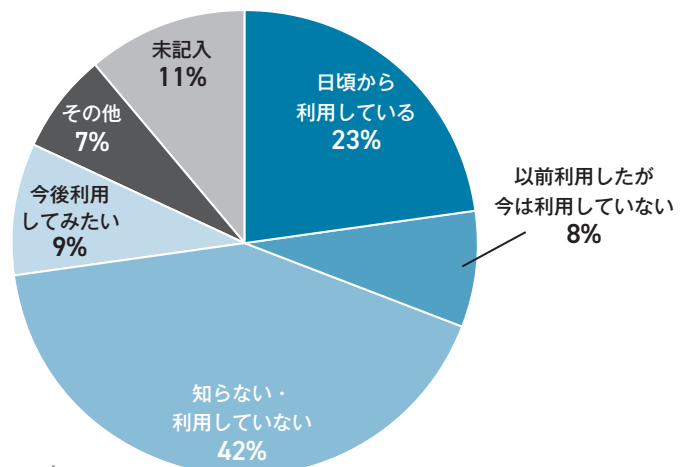
⑤買い物の不便さを解消するために必要なこと(意見)

- ・買い物代行サービス
- ・移動販売車の販売サービス
- ・宅配・宅食サービス
- ・介護ヘルパーなどの支援
- ・お店で購入した商品の配達サービス
- ・ボランティアの支援
- ・店舗までの送迎サービス など



⑥宅配・宅食サービスの利用

日頃から利用している	172	今後利用してみたい	66
以前利用したが今は利用していない	65	その他	52
知らない・利用していない	323	未記入	83



⑤で挙げられた「宅配・宅食サービス」ですが、「日頃から利用している」人が23%いる一方で、「知らない・利用していない」と回答した人が42%います。利用方法や利用できる店舗の周知が課題だといえます。

調査の結果から

本市でも日常的な買い物等に不便さを感じている高齢者がおり、特に一人暮らしや高齢の夫婦のみの世帯においては、その割合が高いことが分かりました。

不便さを解消するために必要だと感じている意見を踏まえ、市と社会福祉協議会では、一部の店舗で実施されていた「宅配」に着目。令和5年

度に、那須烏山商工会と連携して市内の飲食店や生活用品店など175店舗に「宅配」の取り組み実態を調査したところ、多くの店舗で「宅配」を行っていることが分かりました。

この結果を踏まえ、買い物に困難を抱える高齢者などへの支援策として、各店舗の宅配などの情報を冊子形式でまとめた「なすから宅配ガイドブック」を作成しました。

高齢者などの買い物支援のため

なすから宅配ガイドブック

を作成しました！

「なすから宅配ガイドブック」は、地域での買い物が困難な人に食料品や日用品などを配達している商店などの情報を取りまとめ、冊子にしたものです。高齢者などが住み慣れた地域で暮らし続けることができるように、買い物支援の1つのツールとして活用してもらうことを目的に作成しました。

どんな内容が載っているの？

宅配事業を行っており、賛同・掲載許可をいただいた市内45店舗が掲載されています。食料品・日用品や家電といったカテゴリー別にまとめられていて、営業時間や連絡先、配達エリアなどが掲載されています。ガイドブックから必要なものを取り扱う店舗を選び、自身の居住地に宅配可能かどうかを調べます。直接店舗に電話し、注文内容、名前、住所、電話番号などを伝えてください。



だれでも宅配をお願いできるの？

高齢者などに限らず、基本的にはどなたでもガイドブックを利用し、宅配を依頼できます。しかし、掲載内容が変更となっている場合や状況により配達ができない場合もありますので、電話などで直接店舗にお問い合わせください。

ガイドブックの配布場所

市役所烏山庁舎正面玄関・南那須庁舎正面玄関ロビー、社会福祉協議会、那須烏山商工会、掲載店舗 など

■問合

健康福祉課高齢いきがいグループ

☎0287-88-7115

社会福祉協議会本所 ☎0287-88-7881



イラストは烏山高校生が担当

表紙およびガイドブック内のイラストの一部は、烏山高校美術部・ボランティア部の生徒が作成しました。2月26日(月)には烏山庁舎で報告会が開かれ、烏山高校生が川俣純子市長にガイドブックを手渡しました。



生活支援コーディネーターから

生活支援コーディネーターの活動として、買い物に困難を抱えている人を支援するために、この宅配ガイドブックを作成しました。買い物で「ちょっと困ったな」と感じたときに役立ててもらえたらうれしいです。



■生活支援コーディネーターとは？

地域の皆さんと一緒に地域の困りごとや生活課題などについて考え、地域の様々な活動や支援を組み合わせる調整役です。本市では、社会福祉協議会の職員がその役割を担っています。

令和6年4月1日から

市役所の組織が変わります

市が抱える様々な行政課題に対し、効率的、かつ、効果的に対応するため、4月1日から市役所の組織改編を行います。
主な内容は次のとおりです。

まちづくり課

なすから暮らし推進グループと地域交通グループの設置

まちづくり課の地域づくりグループと定住推進グループの所掌事務を整理、統合したうえで、次の2グループに改編します。

■なすから暮らし推進グループ

本市に「住みたい」「住み続けたい」と思う、移住・定住政策を推進するとともに、市の魅力を市内外に効果的に発信する業務の一環として「ふるさと納税」事務の強化を図ります。そのほか、市民との協働、都市間交流、関係人口の創出、地域おこし協力隊の事務を担当します。

■地域交通グループ

JR烏山線の利用向上をはじめとした公共交通の推進を図るとともに、今後の人口減少・高齢

化に対応した交通網の充実に向けた施策を検討・推進します。

からせん推進担当の設置

地域交通グループ内に「からせん推進担当」を設置し、JR烏山線の利用向上に向けた取り組みを強化します。

こども課

こども家庭センターの設置

現在、こども課内には、妊産婦や乳幼児に関する相談窓口である「子育て世代包括支援センター」と児童虐待や貧困などの問題を抱えた家庭の相談窓口である「子ども家庭総合支援拠点」が併設されていますが、全ての妊産婦や子育て家庭への相談・支援体制を強化するため、両機能を一本化した「こども家庭センター」を新たに設置します。

都市建設課

住宅グループの設置

都市建設課が所管する公営住宅や木造住宅耐震化促進補助制度のほか、まちづくり課が所管する住宅関連の補助制度(住宅リフォーム助成金、住宅取得奨励金など)や空き家対策など、庁内各課で所管する住宅関連事務を集約した組織として、新たに住宅グループを設置します。

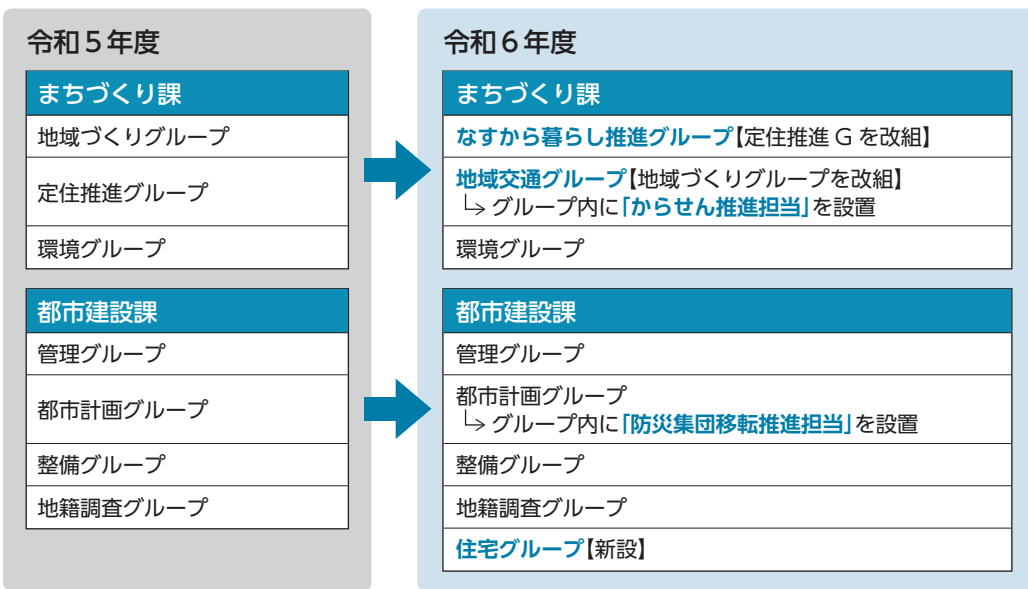
防災集団移転推進担当の設置

都市計画グループ内に「防災集団移転推進担当」を設置し、下境・宮原地区の防災集団移転事業を着実に推進します。

健康福祉課新型コロナウイルス対策

健康福祉課新型コロナウイルス対策は、令和5年度をもって廃止します。

主な組織改編の内容





募金活動を行う烏山高生

令和6年能登半島地震復興支援 龍JINが募金活動

那須烏山市災害ボランティアチーム龍JIN(小堀恵美子代表)では、能登半島地震の復興を支援しようと、2月3日(土)、たいらや烏山店で義援金の募金活動を行いました。

活動には、龍JINのメンバーのほか、烏山高生、ガールスカウト栃木県連盟第14団、市社会福祉協議会など25人ほどが参加し、買い物客などに呼びかけ2時間で20万9,778円の募金を集めました。

義援金は共同募金会を通じて被災地に届けられます。



講師の高田さんとともに笑いヨガを実践する参加者

元気あっぷ市民の集い 「笑いヨガ」で心も体も元気に

2月3日(土)、南那須公民館で第15回元気あっぷ市民の集いが開かれ、約120人が参加しました。今回は、日本笑いヨガ協会創設者で代表の高田佳子さんを講師に迎え、笑いの健康体操「笑いヨガ」を実施しました。当日は、掛け声とともに手拍子をしたあと「イエーイ」と声を出しながら万歳する笑いヨガの基本動作をはじめ、様々な笑いの体操を紹介。会場は終始、笑いの渦に包まれました。

講師の高田さんは、「笑うことは運動になる。普段の生活でも心のワクワク感を大切にしてほしい」と話していました。



給水タンク積載のトラックで出発する職員

令和6年能登半島地震 石川県へ市職員を派遣

市では、国などからの派遣依頼を受け、能登半島地震で被災した石川県へ市職員を派遣しました。

輪島市には、1月30日～2月5日に避難所に設置された仮設給水タンクの補給業務として、職員2人と給水タンク積載のトラック1台を派遣。鳳珠郡穴水町には、2月1日～8日に住家被害認定調査業務として職員1人、2月15日～19日に避難所運営支援業務として職員1人を派遣しました。

なお、今後も派遣依頼に応じて、市職員を派遣する予定です。



消毒液を手渡す荒井代表理事(左)と田村本部長(右)

子どもたちの感染予防のため 小・中学校に消毒液を寄贈

J Aなす南とJ A共済連栃木が市内の小・中学校(7校)にそれぞれ消毒液5リットルを寄贈しました。

地域貢献活動の一環で行っているこの事業は、今回で3回目。1月30日(火)には、市役所南那須庁舎で寄贈式が行われ、J Aなす南の荒井一浩代表理事専務とJ A共済連栃木の田村登志郎本部長が田代和義教育長らに消毒液を手渡しました。

荒井代表理事専務は、「子どもたちが安全・安心な学校生活を送れるよう、消毒液を活用してもらえたらうれしい」と話していました。

市外で生活している学生120人へ 学生応援ふるさと便をお届け

市では、リンレイテープ(株)からの企業版ふるさと納税を活用し、1・2月に、市外で生活する本市出身の学生に対し、「学生応援ふるさと便」を申込者120人に届けました。

これは、学生生活を応援するとともに、地元企業を紹介する資料も同封することで故郷である那須烏山市へのUターン就職につなげようという取り組みで、今年で4回目です。内容は、JAなす南の米や野菜などの農産物のほか、なすからブランド認証品で国見地区のみかんで作った「みかんジャム」などの特産品詰め合わせ5,000円相当。学生が手軽に食べられるよう電子レンジで温めて食べる「パックご飯」やレトルト商品、いちごの食べ比べができるよう「とちおとめ」と「とちあいか」の2種を入れるなど工夫をしました。

また、今年度、より多くの学生および保護者などに同事業を知ってもらおうと新たな取り組みとして、1月7日(日)に行われた「市はたちを祝う会」と14日(日)の「市駅伝大会」でPR活動を行いました。



学生に届けた「学生応援ふるさと便」の品物



市はたちを祝う会でのPR活動



記念講話の様子

重層的支援体制整備事業を活かした地域づくり 第19回社会福祉振興大会

市社会福祉協議会(樋山洋平会長)では、2月17日(土)に南那須公民館で社会福祉振興大会を開き、約120人が参加しました。式典では、社会福祉活動などで活躍した33の個人・団体に表彰状や感謝状が贈られました。記念講話では、厚生労働省地域共生社会推進室の犬丸智則氏が「みんな(協働)でつくるみんなが笑顔で住み続けられる那須烏山市」と題し、住民一人ひとりが役割を持ち、つながり合っていくことで、まちの持続を支えることなどにつながると、事例をもとに話しました。



空き家バンク説明会の様子

空き家の利活用促進に向けて 空き家バンク説明会

市では、2月23日(金・祝)に烏山公民館と南那須公民館で空き家バンク説明会を開催し、市内に空き家を所有する16人が参加しました。

これは、空き家バンクの物件登録数増加を目的に開催したもので、初の試み。説明会では、市地域おこし協力隊の長岡周平隊員が空き家バンクの登録方法や空き家の活用方法などをスライドショーで詳しく説明し、参加者の疑問に答えました。

今後も、空き家の利活用を促進するため、定期的に説明会を開催する予定です。

シンポジウムやランチで交流深める なすから地域づくりフォーラム

2月10日(土)、なすから地域づくりフォーラムがAKV(アキラ興野ビレッジ)で開催され、約70人が参加しました。これは、栃木県コミュニティ協会が主催する「コミュニティカレッジ2023」事業の一環で、(一社)とちぎ市民協働研究会と市社会福祉協議会、NPO法人クロスアクションが共同で企画したものです。事業の受講者が県内各地から参加したほか、地域住民として多くの市民も参加しました。

当日は、「なすから地域づくりシンポジウム」を開催し、市内で活動する5団体の代表者らが、活動内容や自身の経験、まちづくりで大切なことなどを話しました。とちぎ市民協働研究会の代表理事で今回の進行役を務めた廣瀬隆人さんは、「まちづくりは人とのつながりを作ること。つながりを持つための手段を多様に持つことが大切」と話していました。

その後は、「地域づくりガーデンパーティー」として、屋外のテラスでランチ交流会を開催。参加者は、市内のカレーコロッケや鮎の塩焼きなど、市内のグルメを堪能しながら、交流を深めていました。



シンポジウムの様子



テラスで食事をしながら交流を深める参加者



◀国見みかんジャムパンを頬張る児童

「国見みかんジャムパン」が 境小の給食に登場

市では、(社)大和久福社が運営する就労支援事業所「パン職人いっぴ」で作られた国見みかんジャムパンを、2月21日(水)に境小の給食で提供しました。これは、地産地消の推進と就労支援事業所の物品調達の支援を目的に行ったもの。今回は試行的な取り組みで、今後、市内の小学1年生と中学3年生への提供に向けて検討を進めていきます。

パンには同所手作りの国見みかんジャムが使用されていて、優しいみかんの風味が味わえます。児童たちは、「ふわふわしている」「甘くておいしい」とうれしそうにパンを頬張っていました。



◀リハビリの仕事を経験する子どもたち

境の日2024 子どもたちがお仕事体験

2月18日(日)、境小を会場に、境の日(Sakai Dream Heroes主催)が開かれ、小・中学生など約500人が参加しました。

今回は「お仕事体験Day」として、地元企業などの協力のもと、リハビリや大工、鉄工業、ダンスインストラクター、模擬店、お笑い芸人の体験コーナーを設置。子どもたちは、楽しそうに様々な仕事に挑戦していました。また、会場にはマジックやバンド演奏などのステージイベントのほか、射的やストラックアウトなどのコーナーも設けられ、笑顔で交流する地域住民の姿が見られました。



◀ 全国大会に出場した小森さん

サッカーの小森さん 高校総体でベスト8

矢板中央高等学校3年の小森輝星さん(向田)が、昨年7月に行われた「令和5年度全国高等学校総合体育大会」に出場し、見事ベスト8に輝きました。ミッドフィルダーとして活躍した小森さん。昨年12月には、「第102回全国高校サッカー選手権大会」にも出場を果たしました。

大会を振り返り小森さんは、「全国の舞台では、緊張して自分の力を出し切れず悔しい部分もあったが、チームのおかげでベスト8になれた。高校卒業後もサッカーを頑張りたい」と話していました。

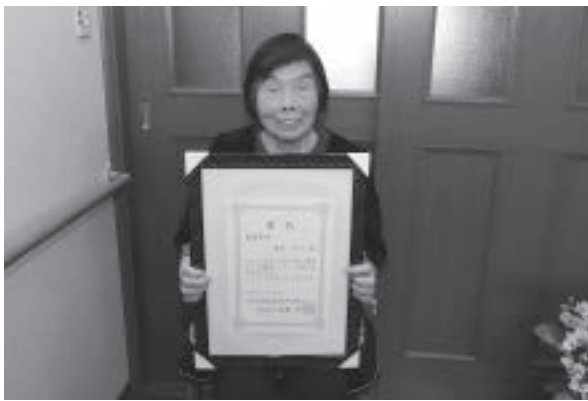


◀ 鬼面に向かって矢を放つ鳴弦

1年の無病息災を願う 八雲神社で「追儺祭」

2月3日(土)、八雲神社で恒例の節分行事「追儺祭」が行われました。「追儺」とは悪い鬼や疫病などの厄を払い、福を迎える儀式で、八雲神社の年間行事の一つです。毎年、その年の山あげ祭の当番町が中心となって行われ、今年は「仲町」が行事を仕切りました。

当日は、厄除けや開運などの神事のほか、鬼面に向かって矢を放つ鳴弦が行われました。最後には、今年の年男・年女などによる「がらまき」が行われ、福を授かろうとお菓子などの縁起物に懸命に手を伸ばす参拝客の姿が見られました。

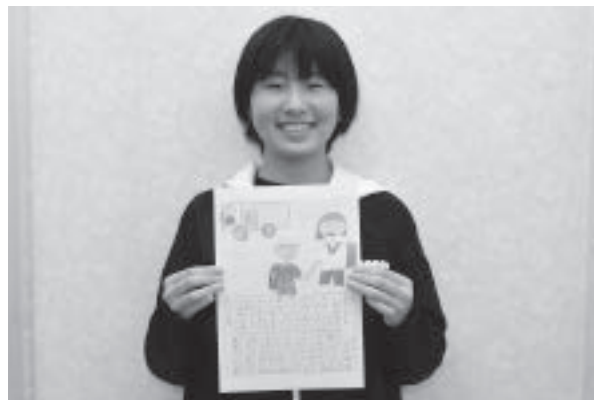


◀ 最優秀賞を受賞した海土さん

「健康づくり体験談」で 海土さんが最優秀賞

栃木県後期高齢広域連合が募集した「健康づくり体験談」で、海土タマさん(南1丁目)が最優秀賞に輝きました。タイトルは「気ままに健康に」。日課である散歩や家庭菜園、市のいきいきサロン「より合いクラブ」への参加などについて、体と心の健康のために無理なく気ままに続けているという海土さんの日常が書かれています。

受賞に驚いたと話す海土さんですが、「何でもやってみるものだと思った。これからも気ままに日課を続けていきたい」と笑顔を見せていました。



◀ 最優秀賞を受賞した石井さん

「家庭の日」絵日記コンテストで 石井さんが最優秀賞

境小6年の石井陽莉さん(下境)が、県などが開催した「家庭の日絵日記コンテスト」で応募総数1,508点の中から最優秀賞に選ばれました。「私の本音」と題した絵日記には、通学時に感じた障がいのある弟への気持ちや一緒に通学することの喜びなどが、笑顔で手をつなぐ2人の絵とともに書かれています。

石井さんは、「自分が卒業しても、弟が友達と仲良く学校に通えるようにと願いを込めた。ヘルプマークを知ってもらうために丁寧に書いた」と話していました。

節分イベントや子どもたちが発表会 各地で郷土芸能を披露

宮原八幡宮太々神楽「節分豆まき・神楽の舞」

2月4日(日)、大田原市のなかがわ水遊園で豆まきイベントが開かれ、宮原八幡宮太々神楽保存会による宮原八幡宮観世流太々神楽が披露されました。

当日は、厄払いなどを表現した大蛇が登場する「ヤマタノオロチ退治」が上演され、その後は、菓子などがまかれる「がらまき」が行われました。

訪れた約150人が伝統の舞と「がらまき」を楽しみながら、無病息災を願いました。



宮原八幡宮太々神楽保存会による「ヤマタノオロチ退治」

江川小の郷土芸能クラブ「成果発表会」

江川小の郷土芸能クラブが、1月25日(木)に成果発表会を行いました。郷土愛の醸成や後継者育成を目的に令和3年度に発足した同クラブ。成果発表会は昨年引き続き2回目で、6年生3人、5年生3人、4年生1人が三箇埴天祭保存会(阿部佐太郎事務局長)による指導のもと練習してきました。

当日は、笛や太鼓の音色に合わせて「はやし太鼓」や「扇踊り」を披露。子どもたちは真剣な面持ちで練習の成果を発揮しました。



江川小郷土芸能クラブによる「扇踊り」



◀久保田さん

久保田清さん 100歳おめでとうございます

久保田清さん(滝田)が2月10日(土)に満100歳の誕生日を迎え、市から記念品が贈られました。

以前はタバコ農家だった久保田さん。現在は市内の介護施設で暮らしています。食べ物は好き嫌いなく何でも食べるそうですが、甘いものが特に好きだそうです。

長生きの秘訣は「一生懸命働くこと」で、ご家族から見ても働き者で前向きな性格だという久保田さん。100歳を迎え、「皆さんにお祝いをしてもらってうれしい」と話していました。



◀小川に小砂利を入れる参加者ら

荒川南部地域保全会が ホタルの保全活動

荒川南部地域保全会(山田清会長)によるホタルの保全活動が2月3日(土)、猿久保田んぼ公園周辺で行われました。

猿久保田んぼ公園周辺には、毎年6月頃にホタルが飛翔します。今年もたくさんのホタルが見られるように公園周辺の草刈りのほか、小川に堆積した木の葉や泥を掃除し、小砂利を入れる作業を行いました。当日は、同保全会員のほか、JR東日本宇都宮運輸区の社員や地域の子どもたちも参加し、環境保全活動に汗を流しました。

地域活性化のために活動中 地域おこし協力隊活動報告

地域おこし協力隊の武田隊員、長岡隊員の2名が本市の地域活性化のために様々な活動に取り組んでいます。

1月25日(木)に栃木市で行われた地域おこし協力隊交流サロンに両隊員が参加し、県内で活動する地域おこし協力隊と情報交換を行ったほか、栃木市内を視察し、他市町の地域づくりの取り組みについて学びました。長岡隊員は、「他市町の隊員と話をして、移住者である地域おこし協力隊が活動するためには地域の人とのコミュニケーションが不可欠だと感じた」と話していました。

また、2月16日(金)には、烏山中学校の総合学習の時間に実施された職業講話に武田隊員が講師として参加し、地域おこし協力隊になった経緯や活動内容について紹介しました。中学生に対し武田隊員は、「皆さんが地域を思い行動をすることで、地域の活性化につながる。この機会に、地域について考えてみてほしい」と中学生に呼びかけました。

地域おこし協力隊の活動は、市ホームページで随時紹介しています。地域の皆さんの応援をよろしくお願いします。



地域おこし協力隊交流サロンに参加した皆さん



烏山中での講話



那須南病院 病児保育所のご案内

ご利用の流れ

- 1 事前に利用登録(年度ごとの登録)**
「利用登録書」を那須南病院または市こども課に提出
- 2 お子さんが
病気・けがを発症**
- 3 那須南病院総務課へ仮予約の連絡**
- 4 かかりつけ医を受診**
「診療情報提供書(利用連絡票)」をかかりつけ医に持参し、診察結果を記入してもらう
- 5 那須南病院総務課へ
本予約の連絡**
- 6 病児保育所入室**
利用当日に「利用申請書」「診療情報提供書(利用連絡票)」を持参し、お子さんを預ける
- 7 保育終了・お迎え**
当日分の利用料を支払う

病児・病後児保育とは、症状の急変はないが回復期に至っていないお子さんや、病気の回復期ではあるが集団生活が困難なお子さんを保護者の勤務の都合や病気などで、家庭で保育ができないときに、病児保育施設で看護師や保育士が一時的にお子さんを看護・保育する事業です。市内では、那須南病院病児保育所で実施しています。

【対象】生後10か月～小学6年生

※那須烏山市・那珂川町・高根沢町在住の児童および保護者が那須烏山市内事業所に勤務する児童

【保育時間】月～金曜日 午前8時～午後6時

【利用定員】1日3人まで

【利用期間】1回の申請につき連続7日まで

【利用料金】①那須烏山市・那珂川町・高根沢町に住所を有する人
・生活保護世帯・市民税非課税世帯 0円/日
・その他世帯 2,000円/日
②那須烏山市の事業所に勤務する人 3,000円/日

利用には、年度ごとの事前登録が必要です。事前登録や利用申請に必要な書類などは、市ホームページからダウンロードできます。

■問合せ こども課保育グループ

☎0287-88-7116

市ホームページ▶



まちかど*レポート



お母さんに優しく声掛ける浅川さん

女性の体と心に寄り添って

助産師 浅川 まり子さん



赤ちゃんの健康状態をチェック

プロフィール

■住 所：小 塙

■趣 味：

バードウォッチング、
御朱印巡り

浅川さんは、県内の病院に勤める傍ら、市内で赤ちゃんが生まれた家庭への訪問や学校における思春期教室など、地域に根差した助産師として長年活躍しています。助産師を志したのは、看護学生時代のこと。命の誕生や女性の生涯をサポートしたいと、助産師の道に進みました。

東京都出身の浅川さんは、夫の転勤をきっかけに本市に移住。その後は子育てに励みながら、助産師の仕事をしてきました。病院で妊娠・出産に携わるだけでなく、地域における助産師の役割も大切だと考えている浅川さんは、「地域で働くことで、お母さん一人ひとりの気持ちに寄り添いながら、赤ちゃんとの生活を見守ることができる。どんな些細なことでも、お母さんが相談してくれることがうれしいんです」と優しく目を細めます。

「助産師の仕事は、命に関わる責任ある仕事なので緊張することも多い。でも、それ以上にたくさんの幸せな瞬間に出会える。女性の一生に関われるこの仕事にやりがいを感じている」と笑顔を見せる浅川さん。今後の目標を聞くと、「おばあちゃんになっても、助産師を続けること。これから更年期などの分野も研究し、幅広い年齢の女性を支えていきたい」と明るい表情で語りました。

JR烏山線全線開業100周年事業 「からせん」の思い出

JR烏山線が令和5年4月に全線開業100周年を迎えたことを記念し、市民の皆さんから寄せられた「からせん」の思い出を紹介します。

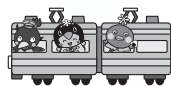
匿名希望さんからのHPバンド

6、7年前のことです。孫のおもりで初めて烏山線に乗り大金まで行きました。たくさんのお小学生が鴻野山駅で乗り込んできました。発車すると大きな男の子、たぶん6年生だと思えます。立っていた1年生の女の子を座っていた上級生の男の子を立たせて座らせました。そして、ふざけていた男の子たちを注意して、何事もなかったようにお友達と話していました。私はとても感心してしまいました。名札には荒川小学校とありました。那須烏山はいいところだなと思いました。ちなみに孫は江川小学校で、やさしい子です。旗を持った地域の方々や子どもたちを電車に乗せているお姿に心暖かくなりました。私のところでも少子化が止まりません。どうぞこれ以上子どもたちが減りませんようにと願うばかりです。

菊地文子さん(野上)からのHPバンド

娘が小学1年生、息子が年中の頃の話。鴻野山の私の姉の所へ、烏山線で子ども達を遊びに行かせることにしました。烏山駅で見送り姉に乗ったからねと連絡し、姉が鴻野山駅に迎えに行くとき、子どもたちは降りて来なかったと連絡があり、私は烏山駅にその事を告げ本当に心配でした。その頃電車の中で娘たちは弟に「大丈夫、この気動車はまた烏山駅に戻るから乗っていいよ」と励ましていたそうです。鉄道公安の方々に見つけていただき、仁井田駅で子ども達と会うことができました。鴻野山駅では降りる人が居らず、ドアノブが固く開かなかったそうです。

現在娘が49歳、息子が46歳です。



お知らせ



市の人口

令和6年2月1日現在

人口 23,146(-57)

男	11,502	女	11,644
出生	8	死亡	51
転入	35	転出	49

世帯数 9,033

※()対前月比
※令和2年国勢調査を基に集計した統計人口です。



「ご寄附」ありがとうございます

■図書購入費寄附金

赤ちゃん名 (保護者住所) 堀江敦心(淳一・潤)旭2丁目
瀬尾蓮(一騎・瑞穂)城東
樋山律人(賢治・明菜)向田
菱沼星梨南(貴彦・佳子)上境
岡本樹(渉・寛子)大金
稲垣彪真(竜太・惠美子)志鳥

※ここでは、保護者などの了解が得られた情報のみを掲載しています。



おめでた

文芸コーナー川柳 小堀翠泉さんが選者に



小堀さん

広報なすからすやまの文芸コーナーについて、これまで川柳選者を務めていただいていた故・篠崎醉月さんに代わり、令和6年3月号から、小堀翠泉さん(本名:小堀ひろ子さん・中央2丁目)をお願いすることになりました。

小堀さんは、「川柳は、日常を飾らない言葉で5・7・5にしたためるもの。句を詠むひとときは、きっと自分だけの幸せなものになるはずです。ぜひ、気軽に川柳を楽しんでもらえたらうれしい」と話してくれました。

小堀さん、これからよろしくお願ひします。

令和5年度 コミュニティ助成事業報告

(一財)自治総合センターでは、宝くじの社会貢献広報事業として、集会施設やコミュニティ活動備品の整備に対して助成を行い、地域のコミュニティ活動の充実・強化を図ることにより、地域社会の健全な発展と住民福祉の向上に寄与するための「コミュニティ助成事業」を行っています。

コミュニティ助成事業のメニューのうち「一般コミュニティ助成事業」を活用し、泉町自治会が半纏・浴衣の新調事業を行いました。

■問合 まちづくり課 ☎0287-83-1151



スポーツの結果

●第16回北総警杯少年柔道学年別・体重別選手権大会(12月23日(土)ユウケイ武道館)

〔幼稚園の部20Kg超級〕▽第3位…

神奈川南那須会の笹崎金平様(神奈川豊から、図書購入費として13万円を寄附いただきました)。
■ふるさと応援寄附金
高野和彦様(北海道札幌市)から20万円、匿名希望者様12人から合計16万円が本市に寄附されました。

大橋歩(習励館大橋道場)

●第25回塩那小学生柔道錬成大会(1月28日(日)県北体育館)

〔1年生男子1〕▽準優勝…鈴木新士(習励館大橋道場)▽第3位…平野陽仁(同)

〔2年生男子1〕▽準優勝…平野陽大(習励館大橋道場)▽第3位…赤坂駿次郎(同)

〔3年生男子1〕▽準優勝…遠藤平徠(南那須柔道)

〔3年生男子3〕▽準優勝…大森羽琉(習励館大橋道場)

〔3年生女子1〕▽第3位…大橋潤(習励館大橋道場)

〔4年生男子1〕▽第3位…赤坂厘太郎(習励館大橋道場)

(習励館大橋道場)

〔5年生女子1〕▽準優勝…荻野目夢(習励館大橋道場)▽第3位…遠藤妃徠(南那須柔道)



受賞 おめでとうございます

●令和5年度栃木県青少年育成県民会議表彰

〔子ども育成・憲章功労者〕吉川佳代子

〔子ども育成・憲章功労団体〕青少年を育てる七合地区協議会



編集後記

今回の特集は「高齢者の買い物支援」についてです。買い物アンケートの結果をもとに、支援策として作成した「なすから宅配ガイドブック」も紹介していますので、ぜひ、ご覧ください！また、今回の表紙には、実際に宅配を行っているお店の方と利用している方に登場いただきました。撮影にご協力いただき、ありがとうございました◎

買い物といえば、お目当てのものを買いに行っても、お店に到着するとあれこれと目移りしてしまい、買う予定のなかったものを次々とカゴの中へ。家に帰ってから肝心なものを買い忘れたことに気づくのですが、これって「買い物あるある」ですよね?? (M)



新着図書

南那須図書館 ☎0287-88-2748 Fax88-0204
 烏山図書館 ☎0287-82-3062 Fax82-7566

図書館HPから新着図書が検索できます。 <https://lib-nasukarasuyama.jp/>

◆一般図書◆

- ◇『体のトリセツ』 渡邊 眞理
- ◇『最新予測巨大地震の脅威』 ニュートンプレス
- ◇『注文の多すぎる患者たち』 ロマン・ピッツィ
- ◇『ブラック・ショーマンと覚醒する女たち』 東野 圭吾
- ◇『東京都同情塔』 九段 理江

◆DVD◆

- ◇『銀河鉄道の父』 成島 出監督
- ◇『ある男』 石川 慶監督
- ◇『ケイコ目を澄ませて』 三宅 唱監督
- ◇『十二人の死にたい子どもたち』 堤 幸彦監督
- ◇『RRR』 S.S. ラージャマウリ監督
- ◇『PUI PUI モルカー』 見里 朝希監督

◆児童図書◆

- ◇『人類の夢をかなえた飛行機の本』 ヒサ クニヒコ
- ◇『捨てられる魚たち』 榎木 春幸
- ◇『楽しいトランプ』 C.L. トランプマイスター
- ◇『直紀とふしぎな庭』 山下 みゆき
- ◇『なぞなぞどろんのもり』 織田 りねん

◆電子図書◆

- ◇『ひとり酒、ひとり温泉、ひとり山』 月山 もも
- ◇『脱マンネりごはん』 あべし
- ◇『大人かわいいかんたん実用おりがみ』 石川 眞理子
- ◇『学園の魔王様と村人Aの事件簿』 織守 きょうや
- ◇『ひなまつりのお手紙』 まはら 三桃

俳句

元旦の地震火災の怖き日々

一言を添へて並べるお年玉

成人式さつちりと髪七三に

冬晴や一直線に飛行雲

水野 信一 選

須田 孝子(城 東)

板橋 陽子(岩 子)

伊藤 善子(田野倉)

古内 晴代(金 井)

川柳

走り去る車のほこりいつまでも

信念をたつた五日で幕を引く

老いて尚ちよいと気になる木の葉髪

感謝して免許返納舵転じ

樋山 隆(向 田)

根本 栄寿(横 枕)

川俣登志子(旭)

小川 昌子(向 田)

短歌

本を読み手先を使い運動し老いの坂道ゆつくり登る

気になるは今のコロナ禍報道がたまには欲しい自粛ゆるみ

寒風に枯葉ころがり舞う庭に早水仙はざろり芽を出す

霜の朝ベンチの上が真っ白に何か書きたいでもそのままに

滝口 節子 選

古内 晴代(金 井)

水上キヨ子(志 鳥)

川手 トヨ(金 井)

佐藤 恵子(金 井)



文芸コーナー

作品集 作募

毎月5日までに、総合政策課広報広聴グループ ☎321-0692 那須烏山市中央1丁目1番1号)あて、郵送などご応募ください。

another school

新中学生のお子様がいるお母様！

早いうちから中学校の学習を始めませんか？

今月中の連絡で初月の授業料無料！無料体験実施中！

新1、2年生も今なら授業料割引

授業料：8900円～

(金額は授業数で変更)

「広告見た！」とLINEください →→



令和6年4月1日から相続登記が義務化されます

相続登記など名義変更は司法書士へ

司法書士 佐藤毅 事務所

○那須烏山市南2丁目11番23号

○TEL:0287-82-3431

みんなの自慢の1枚



市民の皆さんが撮影した写真を掲載します。子どもの写真(中学生以下)、市内のイチオシ風景や穴場スポットの写真、ペットの写真、偶然撮れたおもしろい写真(珍百景)など、気軽にご応募ください。

応募の際は、①応募者の住所・氏名・連絡先、②掲載する際の名前(氏名・ペンネーム・匿名のいずれかを記載)、③写真のタイトル、④写真について一言(50字程度)記載してください。

■問合 総合政策課広報広聴グループ

Eメール: sohgoheisaku@city.nasukarasuyama.lg.jp



「里のひな祭り」

tsi.Oさん

皆で雛人形を飾って楽しいひと時・・・
ふれあいファミリー・・・



「心まで温かく」

K子さん

よくストーブの前で丸くなっている愛犬をみて今年を着る毛布を買ってみました！
着た姿があまりにも可愛くて家族全員心が温まります♡

子どもたちがプロレスに熱狂

市スポーツ少年団(菊池義夫本部長)が2月3日(土)、烏山小学校体育館で市小学生交流レクリエーション大会を開き、約130人が参加しました。今年は、本県を拠点に活動しているプロレス団体「栃木プロレス」の選手らを迎え、キッズプロレス教室や試合などを行いました。

教室では、北村彰基選手と斎藤拓海選手が子どもたちにスクワットや腕立て伏せなどのトレーニングを教えました。続いて試合が行われ、子どもたちはリングサイドから観戦。ドロップキックや場外乱闘など、迫力満点の選手の闘いに会場は大盛り上がりで、「頑張れー！」と選手を応援する子どもたちの元気な声が響きました。

荒川小5年の小川楷土さん(福岡)は、「リングは思ったよりも高さがあった。初めて近くでプロレスを見られて楽しかった」と話していました。



手作り旗で「からせん」応援

100周年を迎えたJR烏山線を応援しようと、屋敷ふれあいの里の利用者やスタッフが応援旗を手作りしました。旗には、烏山線のイラストや応援メッセージなどが書かれています。

1月26日(金)には、利用者とスタッフ17名が手作り旗を持って烏山線に乗車。車窓からの眺めや「からせん」の思い出話などを楽しみました。